統合設定の管理

この章は、次の内容で構成されています。

- 構成管理データベースの統合，1 ページ
- 計測データのエクスポート，2 ページ
- 変更レコード，3 ページ
- システムログ，3 ページ
- ストレージおよび OVF のアップロード，4 ページ
- 複数言語のサポート，5 ページ

構成管理データベースの統合

構成管理データベース（CMDB）は、システムの変更を追跡および管理するために使用されます。CMDB には通常、仮想マシン（VM）、サービス リクエスト、グループなどのリソースに対する追加、削除、または変更のイベント タイプが表示されます。

CMBD 統合の設定

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[管理] > [統合] の順に選択します。

ステップ 2 [CMDB統合設定] タブを選択し、次のフィールドに値を入力します。

名称	説明
[FTPサーバにエクスポート] チェックボックス	FTP サーバに変更記録をエクスポートするには、このチェックボックスをオンにします。

名称	説明
[エクスポート形式] ドロップダウン リスト	エクスポート形式の種類（CSV または XML）を選択します。
[FTPサーバ] フィールド	FTP サーバのアドレス。
[FTPポート] フィールド	FTP サーバ ポート番号。
[FTPユーザ] フィールド	FTP ユーザ ID。
[FTPパスワード] フィールド	FTP ユーザ パスワード。
[FTPエクスポート頻度] ドロップダウン リスト	変更記録をFTPサーバにエクスポートする頻度を選択します。
[FTPファイル名] フィールド	エクスポートされる変更記録のファイル名。ファイルがターゲットFTPサーバにエクスポートされるたびに、次の変数を使用して新しいファイル名を作成できます。 MONTH、WEEK、DAY、YEAR、HOUR、MIN、SEC、MLLIS 例：XYZ-$DAY-$HOUR-$MIN-$SEC
[FTPのテスト] チェックボックス	FTP の設定をテストするには、このチェックボックスをオンにします。

ステップ 3 [保存] をクリックします。

計測データのエクスポート

計測データのエクスポートを設定することにより、VM リソースの使用率や、リソース アカウンティングの詳細などのトレンド データを、サーバへエクスポートできます。

計測データのエクスポートの設定

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[管理] > [統合] の順に選択します。

ステップ 2 [計測データのエクスポートの設定] タブを選択し、CMDB の設定に使用されるフィールドに値を入力します。

ステップ 3 [保存] をクリックします。

変更レコード

変更レコードの表示

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[管理] > [システム] の順に選択します。

ステップ 2 [レコードの変更] タブを選択します。

（注） 最大 1,000 件のレコードを表示できます。

システムログ

システム ログ（syslog）情報を設定されたサーバに転送できます。 各システム メッセージは重大度と最小の重大度レベルに関連付けられます。

システム ログの設定

手順

ステップ 1 メニュー バーで、[管理] > [統合] の順に選択します。

ステップ 2 [syslog] タブを選択します。

ステップ 3 [Syslog転送の有効化] チェックボックスをオンにし、次のサーバ フィールドに値を入力します。

フィールド	説明
[Syslog転送の有効化] チェックボックス	syslog を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[重大度の最小値] ドロップダウン リスト	選択した重大度の最小値よりも重大度が低いシステム メッセージはフィルタリングされて syslog サーバに転送されません。
[プライマリSyslogサーバ]	
[サーバのアドレス] フィールド	プライマリ サーバのアドレス。
[プロトコル] ドロップダウン リスト	プロトコル（UDP または TCP）を選択します。
[ポート] フィールド	ポート番号
[syslogメッセージフォーマット] ドロップダウン リスト	メッセージの形式（XML またはプレーン テキスト）を選択します。
[セカンダリsyslogサーバ]	
[サーバのアドレス] フィールド	セカンダリ サーバのアドレス。
[プロトコル] ドロップダウン リスト	プロトコル（UDP または TCP）を選択します。
[ポート] フィールド	ポート番号
[syslogメッセージフォーマット] ドロップダウン リスト	メッセージの形式（XML またはプレーン テキスト）を選択します。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

ストレージおよび OVF のアップロード

管理者、グループ管理者、またはエンドユーザがアップロードしたファイルの保管場所を設定できます。 アップロードされたファイルをローカルに保存するか、または外部 NFS 共有マウントポイントを保存先として設定することができます。 管理者は、ネットワーク ファイル システム（NFS）の場所を設定します。

ファイル アップロード機能を使用して、管理者、グループ管理者、またはエンドユーザ（サービス エンドユーザ ポータル）は、オープン仮想化フォーマット（OVF）ファイルをローカル ストレージまたは外部 NFS 共有マウント ポイントにアップロードすることもできます。 NFS の場所

は、管理者が設定します。 詳細については、OVF ファイル アップロード ガイドを参照してください。

複数言語のサポート

Cisco UCS Director は、複数の言語の同時表示および入力をサポートしています。 2 バイト文字セットに基づいたすべての言語がサポートされます。 すべての入力フィールドで、ユーザが選択した言語でのテキスト入力をサポートしています。